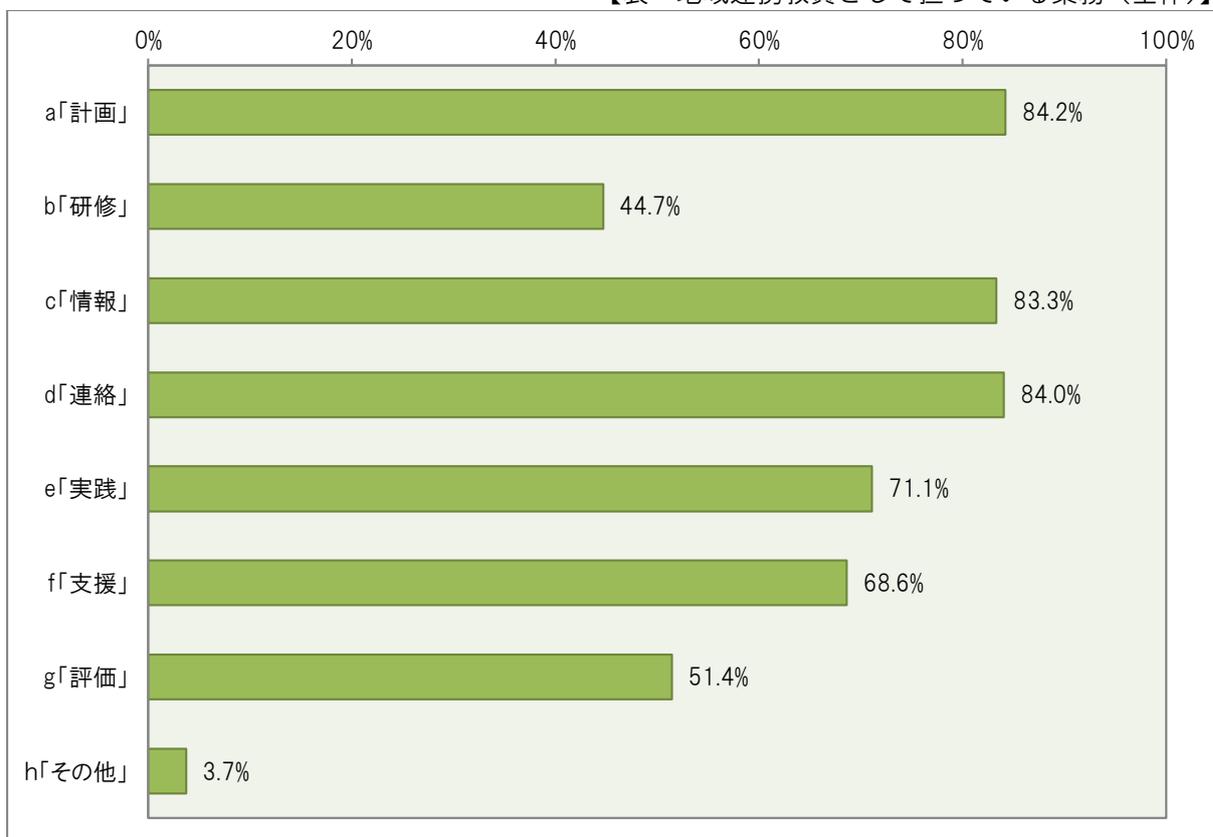


## 2 調査項目の全体集計結果

### (1) 問1.地域連携教員として担っている業務（複数回答）

「計画」、「情報」、「連絡」の割合が高く、「研修」、「評価」の割合が低い。

【表 地域連携教員として担っている業務（全体）】



(n=564)

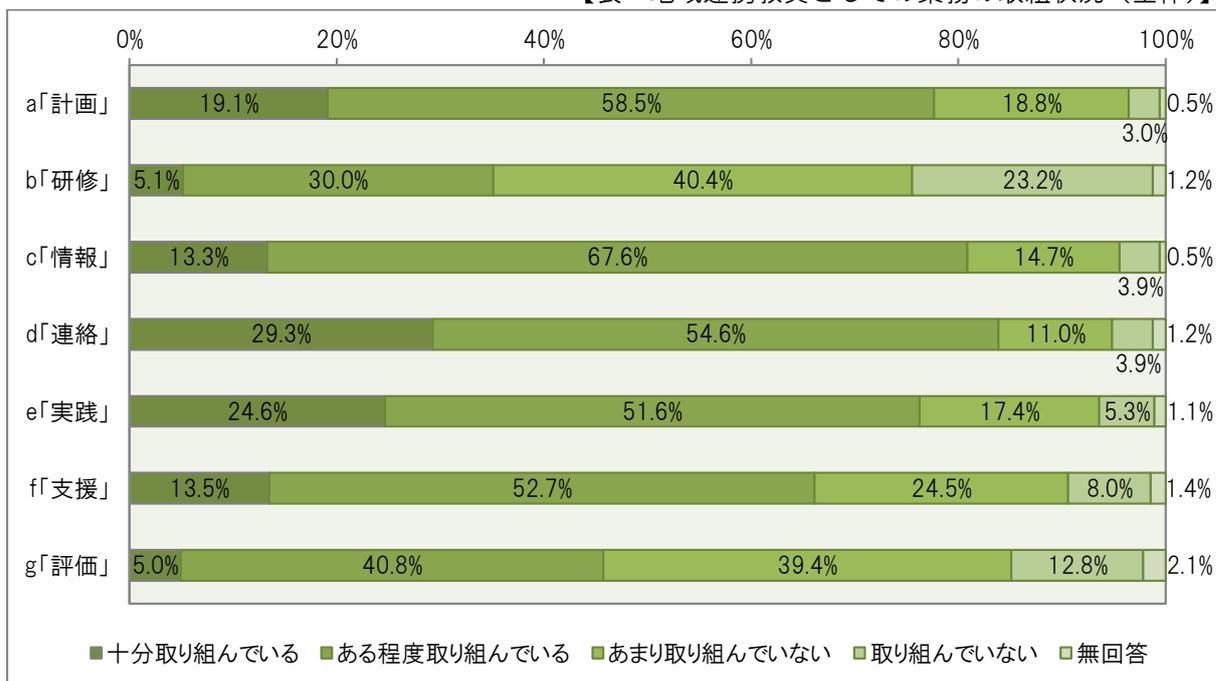
#### ■ その他の記述内容

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 校内の地域連携関係活動の分類・整理<br>（全体像の把握） | <input type="checkbox"/> PTA 活動の運営及び協力  |
| <input type="checkbox"/> 人材活用に関する実施記録作成                | <input type="checkbox"/> 関係地域会議への出席     |
| <input type="checkbox"/> 連携先の連絡先を一括してデータ化              | <input type="checkbox"/> 地域行事への参加       |
| <input type="checkbox"/> 学校支援ボランティアの募集                 | <input type="checkbox"/> 地域連携教員担当文書の処理  |
| <input type="checkbox"/> 関係地域団体事業の計画・運営                | <input type="checkbox"/> ボランティア関係の必要物購入 |

## (2) 問 2.地域連携教員としての業務の取組状況

「計画」、「情報」、「連絡」、「実践」については、他項目と比較してよく取り組まれており、特に「十分取り組んでいる」を見ると、「連絡」の割合が29.3%と最も高い。一方、「研修」、「評価」については、他項目と比較してあまり取り組まれておらず、特に「取り組んでいない」を見ると、「研修」の割合が23.2%と最も高い。

【表 地域連携教員としての業務の取組状況（全体）】

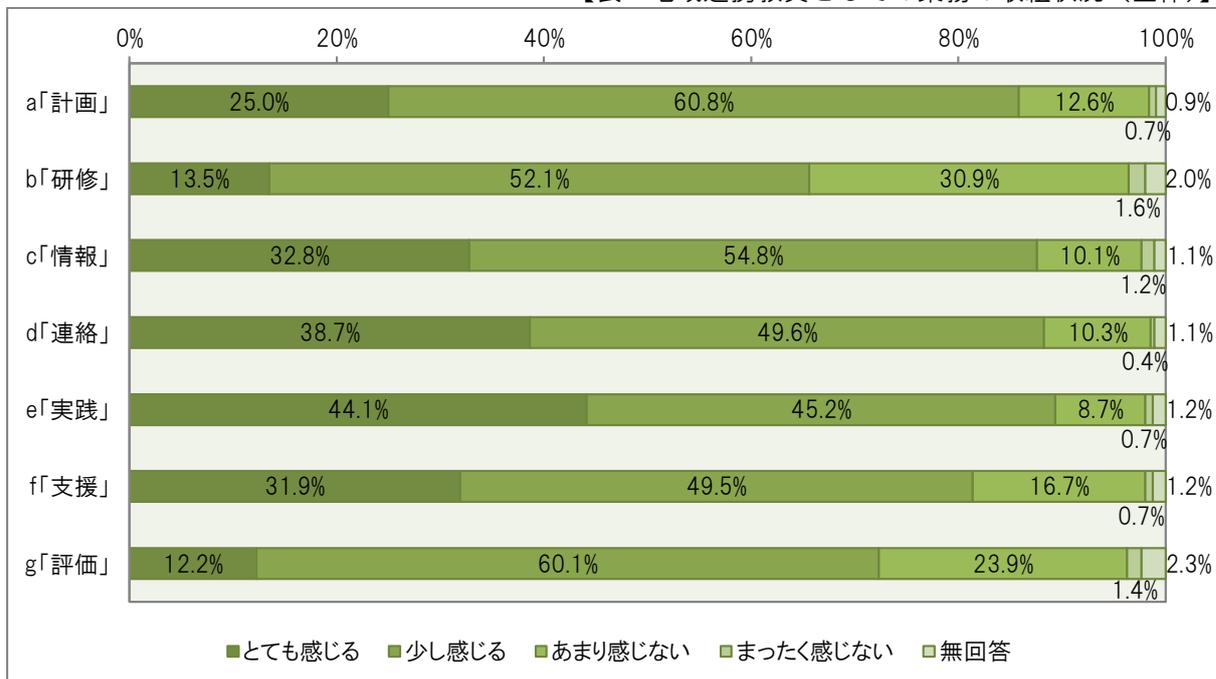


(n=564)

## (3) 問 3.地域連携教員としての業務の「やりがい」や「意欲」

「計画」、「情報」、「連絡」、「実践」については、他項目と比較してやりがいや意欲を高く感じており、特に「とても感じる」を見ると、「実践」の割合が44.1%と最も高い。一方、「研修」、「評価」については、他項目と比較してやりがいや意欲をあまり感じておらず、特に「あまり感じない」を見ると、「研修」の割合が30.9%と最も高い。

【表 地域連携教員としての業務の取組状況（全体）】

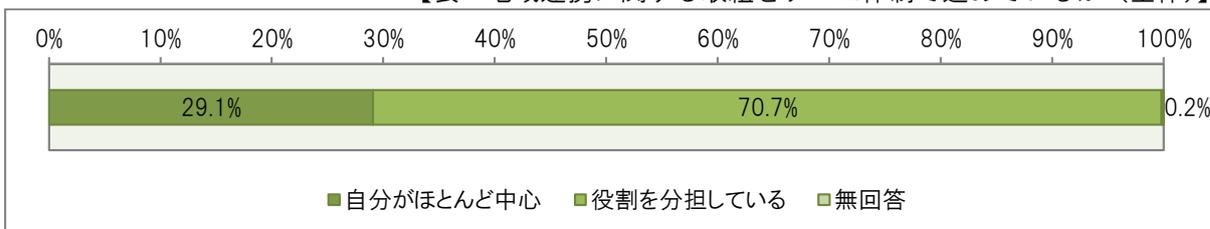


(n=564)

(4) 問 4.地域連携に関する取組をチーム体制で進めているか

約 7 割の学校が、地域連携に関する取組を役割分担をしながらチーム体制で進めている。

【表 地域連携に関する取組をチーム体制で進めているか (全体)】



(n=564)

■役割分担に関する記述内容

- 業務内容を整理し、それぞれの業務について誰が役割を担っているかを下表にまとめた。
- 分担されているものに○、中でも多く記述のあるものに◎を付けた。
- 複数の担当者に印が付いている業務は、それらの担当者間で協力していたり、いずれかの担当者が単独で担っていたり、各校の実情によりさまざまである。
- 傾向としては、「学校全体に関わることは教頭や教務」「具体的な企画・運営・記録は直接関係する者」「最初の窓口としての連絡調整・後方支援・記録の集約は地域連携教員」となっている。これといった線引きはせず、各業務について緩やかに担当者を重ねつつ、状況に応じて分担している。

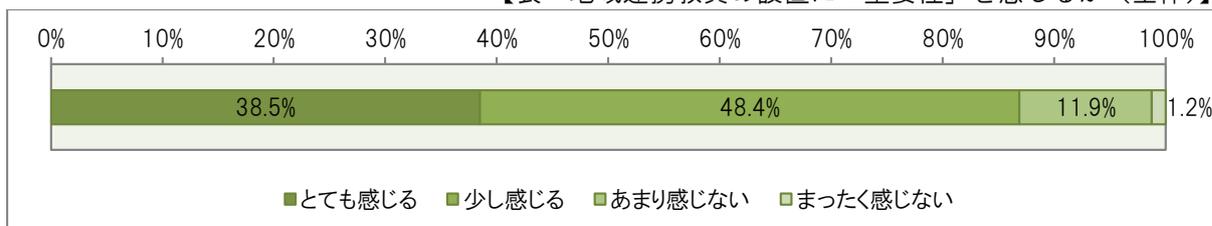
【表 地域連携に関する業務内容分担】

業務内容	担当者							
	地域連携担当	校長	教頭 (副校長)	主幹教諭 教務主任	関係学年 関係分掌	コーディネーター	地域団体	
<input type="checkbox"/> 地域の関係会議への出席	○	◎	○					
<input type="checkbox"/> 地域行事への参加協力	○	◎	○					
<input type="checkbox"/> 情報の収集	○	○	○					
<input type="checkbox"/> 関係研修の受講	○	○	○					
<input type="checkbox"/> 情報の発信	○	○			◎			
<input type="checkbox"/> コーディネーターとの連絡調整全般	○		○	○				
<input type="checkbox"/> ボランティアとの連絡調整全般	○		○	○		◎		
<input type="checkbox"/> 関係事業の企画・運営	○		○	○	○		○	
<input type="checkbox"/> 全体計画の作成	◎			○				
<input type="checkbox"/> 年間計画の作成	◎			○				
<input type="checkbox"/> 関係文書の收受や発送	○				○			
<input type="checkbox"/> 関係予算計画	○				○			
<input type="checkbox"/> ボランティアの募集	○					○		
<input type="checkbox"/> 連携先と校内関係者のコーディネート	◎					○		
<input type="checkbox"/> 活動記録の蓄積	◎							
<input type="checkbox"/> 校内ニーズの把握	◎							
<input type="checkbox"/> 職員への周知	○							
<input type="checkbox"/> 情報の提供	○							
<input type="checkbox"/> 連携事業の支援	○							
<input type="checkbox"/> 助言や指導		○	○					
<input type="checkbox"/> 関係者の接待対応		○	○					
<input type="checkbox"/> PTAとの連絡調整			○	○				
<input type="checkbox"/> 地域の団体との連絡調整			○	○		○		
<input type="checkbox"/> 外部講師との連絡調整			○					
<input type="checkbox"/> 学校の窓口として対外的な連絡調整			○					
<input type="checkbox"/> 行政との連絡調整			○					
<input type="checkbox"/> 他校との連絡調整			○					
<input type="checkbox"/> コーディネーターとの具体的な交渉					◎			
<input type="checkbox"/> ボランティアとの具体的な交渉					◎			
<input type="checkbox"/> 関係事業の記録					◎			
<input type="checkbox"/> 関係事業の活動報告					◎			
<input type="checkbox"/> 事業企画への協力						○		

(5) 問 5.地域連携教員の設置に「重要性」を感じるか

「とても感じる」と「少し感じる」を合わせると 86.9%となり、約 9 割の地域連携教員が重要性を感じている。

【表 地域連携教員の設置に「重要性」を感じるか (全体)】

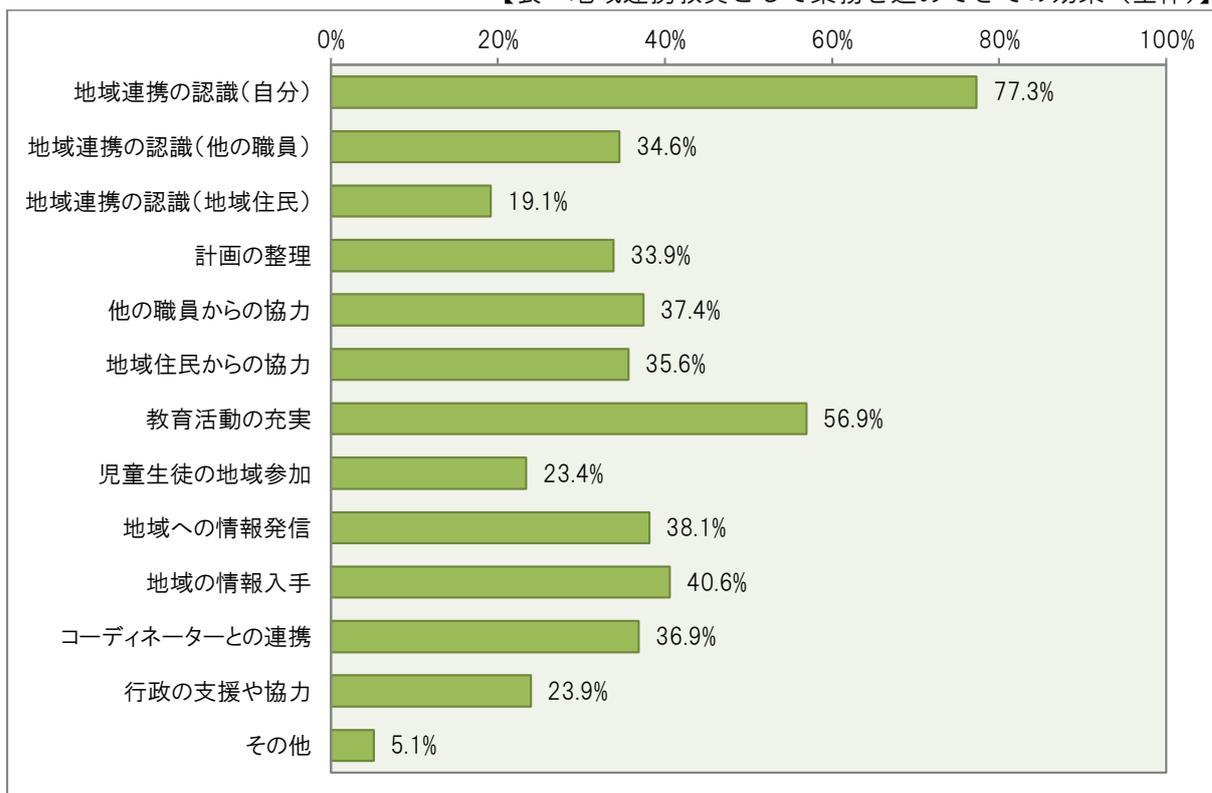


(n=564)

(6) 問 6.地域連携教員として業務を進めてきての効果 (複数回答)

「地域連携の認識 (自分)」の割合が最も高く、次いで「教育活動の充実」の割合が高い。

【表 地域連携教員として業務を進めてきての効果 (全体)】



(n=564)

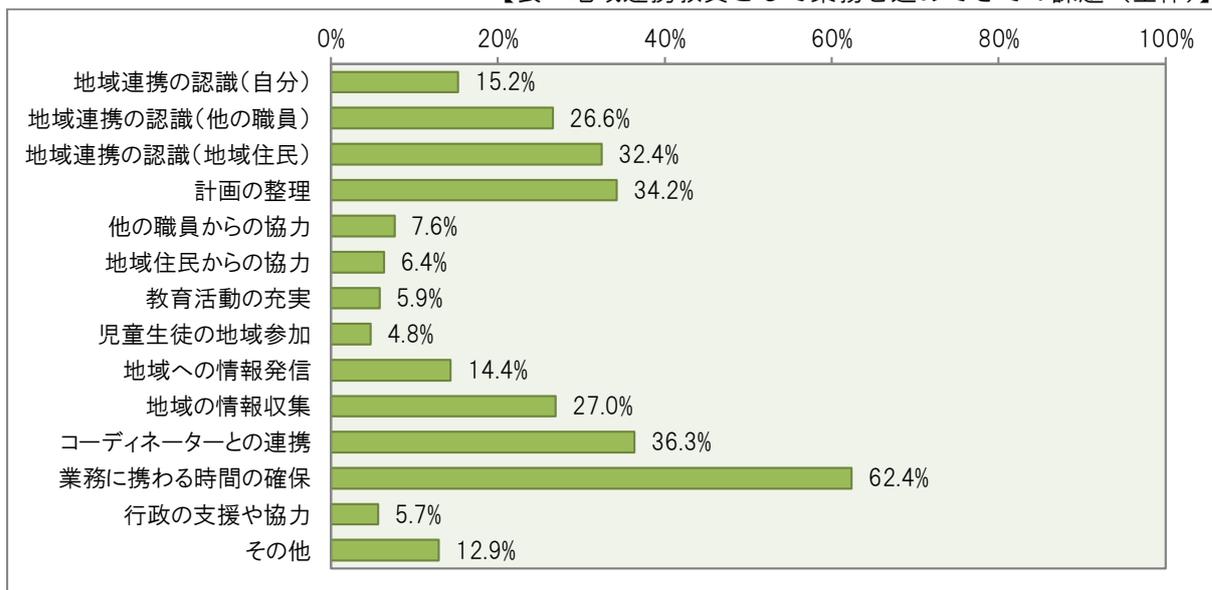
■ その他の記述内容

- 学校内でどのような地域連携をしているのかが職員間で共有できるようになった。
- ボランティアの活用によって、授業支援を充実させることができた。
- ボランティアによる教育活動支援により、生徒の技能が著しく向上した。
- 地域連携教員を通じた学校支援ボランティアへの要請により、担任の負担が軽減した。
- 学校も地域も相互に理解を深めることができ、子どもを一緒に育てていこうという意識がもてた。
- 多くの地域住民と教職員とがふれあうことで地域と学校の関係が深まった。
- 地域や保護者と関わることに積極的になり、職員間で地域や保護者との会合などの話題を持つことも増えた。
- ボランティアの教育活動参加により、地域自体が活性化してきた。
- 保護者の協力が得られないときでも、地域の協力を得ることができた。
- 気軽に手軽に学校支援ボランティアを授業に取り入れようとする流れができた。
- 学校支援ボランティア登録者が増加した。
- 行政側の担当者と話す機会を得られた。

(7) 問 7.地域連携教員として業務を進めてきての課題（複数回答）

「業務に携わる時間の確保」の割合がもっとも高い。

【表 地域連携教員として業務を進めてきての課題（全体）】



(n=564)

■その他の記述内容

- 多くの地域連携を行っているが、関係する学年や係が直接連携を行っているので、地域連携教員が全体像を把握しているとは限らない。
- 地域連携に関連した活動は多種多様であり、すべてに関わることは難しい。
- 周囲の地域連携教員に対する認識が不十分であるため、情報が集約されない。
- 既存の活動に加えて新たな活動を増やすことに抵抗があり、活動の精選が必要である。
- 今まで学年や係が直接連携していたものに地域連携教員やコーディネーターが間に入るようになり、手間や時間がかかるようになったり連絡に食い違いをきたしたりしている。
- 学校によって役割に大きな差があり、異動による戸惑いが大きい。
- 職員には異動があるので、引き継ぎの仕方を工夫する必要がある。
- 学級担任と地域連携教員の役割分担が曖昧になっている。
- 地域連携教員としての業務と校務分掌での業務の線引きが分からない。
- 学級担任が地域連携教員を務めることは時間的な制約がありすぎる。
- 専門的な知識をもつ社会教育主事有資格者がいない。地域連携教員が求められる業務を十分に果たすためには、社会教育主事有資格者の配置と、業務を行うための時間を規則として明確にし、人的な配置をすることが必要である。
- 地域連携教員が率先して何か新しいことを行わなければならないとしたら、管理職か主幹教諭や教務主任が地域連携教員にならないと実際には何も出来ない。
- 教員によって地域連携への理解や実践に違いが見られるため、学年間の差が生じている。
- 地域の活動に生徒を参加させる時間を生み出すことが難しい。
- コーディネーターをどのように選び、その後どのように頼んでいくのか、わからない。
- コーディネーターやボランティアの高齢化が進み、今後、体制維持が困難になると思われる。
- 近隣自治会や地域内組織の代表とのつながりは広がっているものの、それを組織している住民とのつながりに広がっていない。
- 地域のつながりが複雑で、地域をまとめる組織を作りにくい。
- 学校主体ではなく、地域を主体とした活動にしていくための手法。
- 地域と学校が相互に利点を感じる計画を作成することが難しい。
- 各校の地域連携教員間での情報共有ができない。
- 行政からの支援の体制がなく学校任せである。市としてどのように取り組んでいくのか指針も示されていない。
- 行政の研修が多いため、教職員や地域の方の負担が多い。内容、回数ともに精選してほしい。
- 高等学校や県立中学校では、地域の定義や連携の仕方に課題がある。
- 特別支援学校は、在籍児童生徒の実態や学校の特性から地域との関わり方が難しい。

## (8) 問 8.地域連携教員としての活動をさらに充実させるために必要だと思うこと

記述内容を整理し、似た内容のものは集約した。

### ■仕事に取り組むスタンス

- 今行っている取組を充実させていくことが大切。
- これまで地域の力を借りて行ってきた活動を地域連携活動として位置付ける。
- 現在の取組をさらに一歩進める努力をしていく。
- 慌ててあれもこれも行うのではなく、一步一步着実に前進していく。
- 数多くの活動をするに努めるのではなく、本当に必要な活動を残して、あとは思い切って精選する。
- 創意工夫によるところが大きい。新規のものは少々強引でもやってみる勇気も必要。
- 地域と連携するよさを実感することができるようにするには、何を必要としているのか、いつごろ必要としているのかといった「切実な必要感」を地域連携教員が察知することが大切。
- 自分から積極的に地域に出て行き、地域との連携を密にする。
- 地域の方々への協力を積極的に学校から求めていく。
- 学校への関わりをとおして地域住民や保護者同士のつながりができるような仕掛け。
- 地域の中の学校、地域の中の子ども達という考え方。
- 計画立案から評価までに十分に関わる。
- PDCA サイクルを常に意識しながら。
- 「継続は力なり」を信じて行う。

### ■児童生徒

- 地域をよく知らなかったり、地域の中で遊ばなかったりする児童生徒が多く、地域のよさを知る活動が必要。
- 地域の活動に児童生徒を積極的に参加させる手立てを考える。
- 地域活動に参加する児童生徒を増やしていく。
- 児童生徒がボランティアとして参加できるような地域の取組がなされると、より地域の活動に関心をもち、積極的にかかわっていきける。

### ■情報収集と現状把握

- 「職員のニーズ」「子どもたちのニーズ」「地域住民のニーズ」をきちんと把握する。
- 地域の情報
  - ・ 地域の教育資源（人やボランティアと場所）
  - ・ 地域住民が、学校との連携で何を望んでいるのか
  - ・ 子どもたちに出会ってほしい人
  - ・ 学校や子どもたちのために力を貸したいと思っている人
- 地域の関係機関の連絡先・連絡方法の一覧作成。
- 協力していただいた方の現状・要望・活動時の様子などの把握。
- 現在行われている活動内容をまとめる。
- 個々の活動について、地域連携教員と今までの担当者の関わり方を整理していく。
- 地域連携に関係のある活動を整理・把握して、地域連携教員が関わる必要性があるものを見つけ出す。
- 継続事業に関しては、実施時期をまとめておく。
- 各学年で実践してきたものを今後も継続していくためには、だれでも実践できるように資料を蓄積してまとめる。

### ■校内計画の整備

- 学校全体の地域連携に対する目標を設定する。
- 年間計画の作成や精選。実践に沿った全体計画・年間計画等の整備が必要である。年間を通して実際に使える、具体的な計画を作成する。
- 新規の取組を行うばかりでなく、その効果を分析・評価し、精選する。

- 学期に1回程度、計画の見直しを行う時間を確保する。
- 学校の教育活動に「地域との連携をどの活動でどのように取り入れれば有効であるか」「地域にどのように関わっていけばよいのか」を教員全体でじっくりと話し合い、計画を整備する。
- 教育課程との関連に十分配慮する。各教科の年間指導計画への位置付けをもっと整理する。
- ボランティア等の支援計画一覧表等を整備する。
- 地域連携に関する諸計画を整理し、それを地域と学校が共有し、計画的に地域連携を進める。

## ■校内の組織体制

---

- 地域連携のための組織体制の明確化。
- 地域連携教員が、ゆとりをもって業務できるよう、学校の体制を整える。
- 地域連携にはチームとして取り組んでいく体制づくり。
- 円滑な係運営を行うため、地域連携担当間での役割分担の精査。
- 地域連携チームとその他の教員とが組織的に協力できるようにする。
- 地域連携教員は誰がなってもいいように校内の協力体制を整えていく。
- システムを簡素化し、分かりやすい、機能しやすいシステムを構築する。
- 学校全体の業務を精選する。
- 計画、実践、評価を累積しながら、運営しやすい体制を作っていく。

## ■校内での情報共有（職員の理解・意識）

---

- 学校全体で、地域と連携した行事のねらいの明確化と共有。
- 他の職員が地域連携の重要性・必要性について理解するための研修会を行い、意識改革を図る。
- 他の教員が地域連携教員と同じように関わりをもとうとすると、お互いに意識を高め学習効果を上げることができる。
- 他の教員も、地域連携教員がどのような職務を担っているのかを把握する。
- 地域連携教員がすべてを執り行うのではなく、教員一人一人みんなが地域と連携することを念頭に置いて臨む。

## ■地域への情報発信

---

- 常に保護者、一般の地域住民、連携関係者の三者を意識した情報発信。
- 地域連携教員の存在や役割、地域連携の重要性・必要性、地域連携に関する活動、協力依頼・人材募集など、こまめな情報発信。
- 地域連携だより、ホームページ、学校だより、学年だより等あらゆる機会を利用した情報発信。

## ■地域との交流

---

- 多くの人と関わりながら地域の諸行事や活動に積極的に参加したり情報を得よう努力したりする。
  - ・ 育成会や自治会
  - ・ 公民館やコミュニティセンター
  - ・ ボランティア団体
  - ・ 社会福祉協議会
- 地域の諸団体の会合等に出席するなどして関わりを持つこと。まずは地域にどのような組織・どのような人がいるのか「知る」こと、次に「つながる」ことが第一歩だと思う。
- 地域の方からの協力を得られるようにするために、地域の方と交流する機会や場を増やす。
- 地域の方が学校に来校する機会を増やし、学校を理解してもらえる取組を粘り強く続ける。
- 地域の方が、学校に足を運びやすいような環境を整える。
- 地道な取組を継続することで相互理解を進める。
- 地域連携教員として、地域の方と積極的に情報交換をする。
- 地域連携教員を中心に、職員がより積極的に地域に関わる。

## ■地域との連携の在り方

---

- 学校からの要望を伝え、ボランティアを募集するだけでなく、地域のニーズを吸い上げる仕組みを作り、地域に貢献する活動を計画していく。
- 学校側だけでなく地域側にとってもメリットが感じられる活動に高めていく。

- 学校が主体で動くばかりではなく、地域側の考えや要望なども地域の代表者（またはコーディネーター）から聞き取り、両者で意見をすり合わせながら地域連携の在り方を検討していく。
- 学校において地域連携の打合せ会をもち、地域連携の理解と結束を強化したい。
- より効果的な地域連携を推進するためには、十分な事前打合せにより指導・支援方法等についてしっかりと共通理解した上で指導に当たる。
- 地域に対して、学校の実情（実は廃止したい活動もあること）を理解してもらう。
- 地域連携の必要性を保護者や地域の方に伝える研修会をもてるようにする。
- 学校と地域が自由に意見交換や情報共有をする場が必要である。
- 必要に応じて、行政も話合いの場に参加してもらう。
- 行政も含めた地域連携体制の確立。
- 地域から学校に出向き、直接アピールする機会があるとよい。
- 地域と学校が協力しながら「学校をみんなで支えて、子どもを健やかに育てていこう。」という意識を高めていく。
- 企業と連携する際には、学校の教育活動として可能な範囲を見極めることも重要である。

#### ■ コーディネーター

---

- コーディネーターの発掘、養成、育成。
- 各校または中学校区にコーディネーターを配置する。
- コーディネーターが高齢化しているので世代交代を考える。
- 常時活動できるコーディネーター。
- 地域を知り学校とつなげてくれるコーディネーター。
- コーディネーターが学習支援ボランティア・学校環境整備ボランティア募集の情報を発信。
- 取組内容の相談対応、必要に応じて企画提案、さらに連絡調整もするようなコーディネーター（専門スタッフ）を各ブロックに配置する。
- コーディネーターと相互に補完し合いながら活動をさらに充実させる。
- コーディネーターと連携して、ボランティア登録者をさらに増やし、より充実した地域人材バンクの構築することが、教育の質や児童の学習や環境を充実させる。
- コーディネーターと計画を互いに理解し合うための話合いの機会と時間。
- 全職員とコーディネーターとのコミュニケーションを図る。

#### ■ ボランティア

---

- ボランティアの受入内容を広げて人材も開拓する。
- ボランティア活動を保護者限定から一般地域住民に広げていく。
- PTA と連携し、保護者及び地域の方のボランティアによる学習支援の推進を図る。
- 各ボランティア間の連携ができる体制づくり。

#### ■ 地域連携教員の設置にあたり

---

- 専任配置とそれに伴う職員の加配。
- 他の校務分掌の軽減。
- 休日勤務や時間外勤務時の勤務態様の在り方、身分的保証や、十分な対価。
- 社会教育主事有資格者の各校配置を推進する。
- 地域連携教員を学校に2人以上置く。
- 社会教育主事有資格者を地域連携教員に。
- 担任以外を地域連携教員に。
- 教務・主幹・教頭といった全体を見渡せる人が地域連携教員に。
- 学校と地域の両方の事情がわかっている人が地域連携教員に。
- 社会教育主事の資格がある者というよりは、ある程度現任校勤務経験が長く、地域の特性を理解した人が地域連携教員に。
- 地域連携教員はその地域と結びつきの強い人がならないとうまく連携できない。
- 勤務校の地域に在住している人。
- 地域連携教員に。社会教育主事の資格を積極的に取らせる。
- 退職教員の活用。

## ■地域連携教員の研修

---

- 地域連携教員の職務を十分に理解する。
- 研修で各学校の地域連携教員と情報交換を行う。学校には一人しかいないので心強い。
- 研修で地域連携教員の具体的な活動を知り、それを参考にしながら学校の実情に合わせて活動をしていく。
- 「地域とのつながりをもつことは重要だと感じていながらも一歩を踏み出せない教員」を支援または後押しする研修。
- 効率的、効果的な地域連携の在り方の研究。
- 理念だけでなく具体的に実践していく。
- 勤務校での実践例を増やし、視野を広めたり理解度を深めたりしていく。

## ■行政支援

---

- モデルとなるようなものを県などで示す。
- 市町がビジョンをもって、各学校に下ろしてもらえるとありがたい。
- 市町あるいは地区ではどのように取り組んでいくべきか示していく。
- 教職員の基本研修（初任・5年・10年・2年）等における地域連携に関する研修機会や内容の拡充。
- 教員数を増やす。
- コーディネーターの養成、設置を行政主導で行う。
- 市町が、その地域に合ったコーディネーターを育成するための研修を行う。
- コーディネーターの選出については、地域の公民館職員等の関わりが必要。
- 地域に学校支援地域本部を設置する機運を高めるような啓発を、市町が行う。
- 行政が地域住民への説明会等を行う。
- 行政から地域に対する情報発信。
- 行政に地域連携のためのポストを設置して、活動をサポートする。
- 生涯学習課に総括的なコーディネーターを設置する。
- 公民館などが窓口となって、コーディネーター的役割を担ってくれるとよい。
- 定期異動における社会教育主事有資格者の全学校配置や学校間の人数バランスへの配慮。
- 予算措置。活動にあたっての資金面の援助。

## ■連携に関する情報

---

- 先進校の事例をもっと知る必要がある。具体的にどのような事例がうまくいったか、うまくいくようになったきっかけはどのようなことかなど。
- 他の学校の取組の情報交換を行う機会。
- 校種をこえた地域内での地域連携教員の情報交換の機会。
- 広く県内外の優れた指導者の情報を得ることができるとよい。
- 学校に出向いてくれる企業等の情報や実際の授業の内容。
- 学校と連携できる関係諸機関の情報。

## ■その他

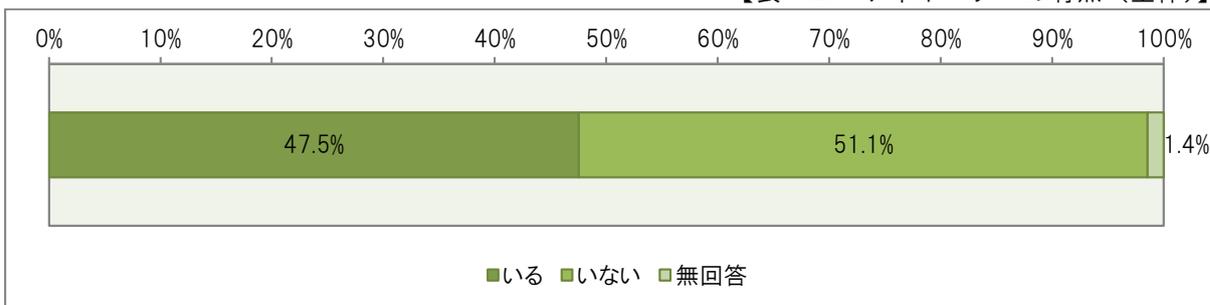
---

- 子どもの貧困対策を念頭に置いた学力向上施策を地域で推進する。
- 学校単位でなく、中学校区で取り組む。
- 地域連携教員が提案し、それをトップダウンで行うというやり方を確立する。

(9) 問 9-1.コーディネーターの有無

約半数の学校に、地域との連携を行う際の窓口としてのコーディネーターがいる。

【表 コーディネーターの有無 (全体)】

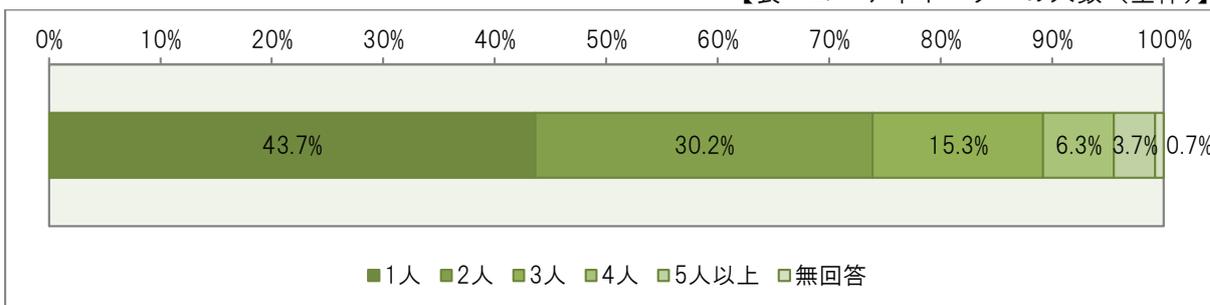


(n=564)

(10) 問 9-2.コーディネーターの人数

コーディネーターの人数は、「1人」が最も多く、4割以上を占める。

【表 コーディネーターの人数 (全体)】



(n=564)